市議会だより

第79号
R元.8.15発行

発行：飯山市議会
編集：議会だより編集委員会

TEL：0269-62-3111
FAX：0269-62-0005
HP　http://www.city.iiyama.nagano.jp/soshiki/gikai/
E-mail　gikai@city.iiyama.nagano.jp

6月定例会 一般質問

平成30年12月撮影

6月18日～20日の3日間にわたり、12名の議員から市政に対する一般質問が行われました。質問の一部を抜粋しての掲載となり、内容につきましては各議員において編集しております。

掲載の順番は質問順です。

移住定住・防犯カメラの重要性 県の教育事業

吉越利明議員

問　この3年間移住者が増えた要因は。

答　新幹線駅開業、移住誘致活動、受入れ体制の強化が要因と考える。

問　移住者の働く先について。

答　就職情報を収集し、事業所などへの同行をしている。起業希望者には支援制度の説明をしている。

問　新幹線や在来線を利用し幅広く就職ができる取組は。

答　広く市内外の企業と連携を図りたい。

問　防犯カメラ設置は今後重要と思うが、市の見解は。

答　犯罪抑止効果、状況把握など一定の効果があるが犯罪を止められる物ではない。設置は調査し、必要に応じて検討していきたい。

問　スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーの活用は。

答　年度初め学校だよりなどでPTAへ周知徹底を図っている。必要に応じて保護者へ制度の活用を促している。

問　12月議会で質問した、やまほいくの申請については。

答　認定園を視察し、来年度以降の申請に向け取組みたい。

岳北地区高校の将来像・中心商店街の明日の姿

松本淳一議員

問　県の高校改革実施方針に、旧第一通学区の『再編・キャンパス化』がはっきりと打ち出されていて地域協議会で検討を始めているが、キャンパス化とはどんなことか。

答　キャンパス化とは『分校になること』と理解している。

問　今年、飯山市内から下高井農林高校に入学した生徒はどのくらいか。

答　全体の約5割が市内からの入学生となっている。

問　下高井農林高校の役割をどのように考えているか。

答　少子化で定員に満たない状況だが、岳北地域唯一の専門高校で、キャリア教育を中心に、地域に残る子供を育てている。重要な役割を果たしている高校と捉えている。

問　中心地区の商店街が力を落としているように見える、本町の店舗数の変化はどうか。

答　平成元年は58店舗、令和元年は36店舗に減少した。

問　店舗減少について調査をしているか。

答　具体的な調査はしていないが、売り上げ減少、後継者問題などが原因と推定される。

「飯山市未来会議」設立の提言

市川久芳議員

◆行政・議会・市民で設立を

問　人口問題また老朽化が進む公共施設など直面している問題を洗い出し、人口が一万五千人、一万人になってもこの地域で生活するには今何が必要か真剣に考える崖っぷちにあると考えているが、市長はどう考えているか。

答　市の将来像について、さまざまな会議をしている中で一番大事なのは言いっ放しでなく参加型が望ましいと考えている。公約にもあるが、市民アイデア会議の設置などで具体的な課題と解決を明確にして取り組んでまいりたい。

◆職員に民間企業研修を

問　昨年の9月と12月議会で提案しているが、12月議会では新年度になったら研修させてくれる企業を探すとの答弁であったがどうなったのか。

答　市内のスーパーを中心に4社打診をして何社からは返答をいただいている。受け入れ企業では研修の内容は限られた接遇の分野ということなので、研修効果等をよく精査して、他の企業も視野に入れ実りある研修にしていきたい。

移住、定住政策の充実を

久保田幸治議員

◆三世代同居等住宅建設支援事業について

問　働き盛りの方がUターンして市内の親族と同居するだけでも支援し、ある程度特化し大胆な支援を。

答　庁内プロジェクトを立ち上げビックリするような企画を提案するよう取り組む。

◆小集落維持政策について

問　人口減少により、集落維持もままならない。幹部職員が維持作業を体験し、実態を認識したうえで政策を。

答　小集落の実情を知ることは大事だ。活性化センター所長も含め検討し進めていく。

◆市職員の意識改革について

問　飯山市とは別法人である信州いいやま観光局、一企業のチラシを市の広報に入れるのは常識では考えられない。市職員の意識改革が必要。一日も早く自立性を保ち、独立した市民に評価される観光局に。

答　市とは異なる組織であることは職員も理解している。観光局は収益事業のみならず公益事業にも取り組んでいる。市報の折り込みチラシという形で、積極的に広報に努める。

市役所組織の機構改革について

西澤一彦議員

問　新たに事業戦略室、公民連携室が設置された目的は。

答　これまでの考え方、手法では限界がある。民間企業の活力、行政の持続性、互いの長所を生かした持続可能な地域社会を目指す。

問　時代の大きな転換期、森林、中山間地の畑の荒廃、有害鳥獣、商店の衰退、少子高齢化、危険空き家、これは私の地元にもあり、雪が屋根から道に落ち剥げたトタンが強風で舞って危険。特定空き家になり次の段階に進むが、各分野でこのような問題がある。

答　市民に寄り添いながら政策を立案し、課題を解決する。

問　解決してゆく強い意志が我々に本当にあるのかどうか、これが問題と考える。委員会視察でも大きな成果があがっている部門には人間力溢れる職員がおり、市民の応援団も出来ていた。いくら制度が整っても、機能させるのは人間。人間力に溢れた人材育成が鍵。

答　そのように思う。職員の想い、人の繋がり、やる気等はとても大事と考える。人材育成に全力をあげてゆく。

介護予防と高齢者の外出支援について

渡辺美智子議員

問　年間を通じて運動が出来る施設整備の計画があるが、進捗状況とどのような施設を考えているか。

答　運動型健康増進施設事業を行っている先進地の視察を考えている。どのような施設にするか今後検討。

問　行きたい時に行け、安く手軽に利用出来る施設に。

答　議員の提案も参考にして、市民が運動できる施設整備をこれから検討していく。

問　高齢に伴って難聴者が増えている。またこれに伴って認知症のリスクが高くなると言われている。相談体制と購入補助が出来ないか。補助をしている自治体がある。

答　相談については、保健福祉課で受けている。身体障がい者手帳保持者には、補装具として支給しているが、それ以外の方への補助については研究していく。

問　シニアカーが利用しやすい歩道の整備を求める。

答　バリアフリー法に基づき整備を進めている。段差等通行に支障があるカ所については、区長を通じて報告を。

これからの農業は・皮袋形土器の県宝への申請

飯田健一議員

◆これからの農業は

問　生産額は伸び悩んでいる。市のこれからの農業の基本的な考え方をお聞きしたい。

答　米、野菜、花卉などは順調に推移している。自分に合わせた経営スタイルを考え、売れる品質のよい農作物をつくっていくことがこれからの一番の課題だ。

問　各農家さんに任せるということで、これをつくろうという具体的なものはないか。

答　農業団体、農業者の代表者、JAからなる飯山市農業再生協議会を組織して、強化する作物などを検討している。市も支援している。

◆皮袋形土器の県宝への申請について

問　戸狩（岡峰）で出土した皮袋形土器は全国的にも価値があると聞いているが、県宝として、市から県へ申請してもらいたいがどうか。

答　先ず、文化財審議委員会の委員からこの件を投げかけてもらい、市の有形文化財に指定をされてからというのがベストかと思う。

一般質問

政治姿勢と小・中学校の通学対策について

小林喜美治議員

◆政治姿勢について

問 自民党と公明党による安倍政権の悪政は、閣僚によるあいつぐ失言、「年金」の老後資金2000万円問題、維新議員による「戦争」発言など、政治の崩壊ともいうべき状況がすすんでいる。日米の首脳会談では、アメリカの要求のもと農産物の関税撤廃を迫られ、大きな譲歩が迫られた。大幅譲歩となれば日本の経済・食料主権にとって亡国の道となると思うが見解を伺う。

答 飯山市の農業を守っていく、飯山の特徴をもった農業、国際化の中で負けない農業づくりを進めていく。

◆小・中学校の通学対策

問 暑さ対策として要望してきた小中学校のエアコンが夏までに設置がほぼ完了したことについて評価をしたい。保護者から通学の形態について要望が寄せられている。現状と課題、通学形態の基準はどうなっているのか伺う。

答 飯山市は原則として徒歩通学を基本にしている。国の基準によって通学距離に応じた形態となっている。

人口2万人割れをどう受け止めるか

高山恒夫議員

問 人口2万人割れと大きく報道されたが。

答 移住定住施策により社会減は100人台まで抑え込んでいる。住みやすさは人口の数のみに表されているわけではない。時代に合った工夫で活力ある飯山をつくっていく。

問 岳北地域の再合併議論を

答 個性を持っている市町村が広域的に連携していくことが望ましい姿ではないか。

◆行政懇談会

問 行政懇談会の役割は。

答 昨年は4回開催した。直接市民の意見や要望を聞ける有意義な場と考えている。

◆公民館の充実

問 公民館主事の嘱託化で社会教育活動をどう進めるか。

答 公民館の担う役割や活動は益々重要と考えている。地区館と連携し特色ある活動を推進していく。

◆歴史とロマンの里づくり

問 小菅文化的景観整備計画の取組みは。

答 護摩堂の改修は市として全面的に協力していく。基金については必要に応じて考えたい。

飯山城址公園の整備事業について

岸田眞紀議員

問 飯山城址公園の整備事業の短期公園整備事業が終了したと聞くがどのような内容だったのか。

答 23年度に策定した飯山城址公園の整備計画は本年度で終了する。市民会館跡地となる西曲輪（にしくるわ）、二ノ丸・三ノ丸を中心とした城郭の基盤整備や復元看板の設置などを行って来た。

◆やまびこカードについて

問 市役所1階の市民ホールにやまびこカードと投函箱が設置されていて4項目が記されているが、その内容から職員の接遇向上の目的と理解するが、どのくらいの投函数があるのか。

答 やまびこカードについては来庁した市民が窓口対応した職員の対応に関して印象等に5段階で評価してもらい庁舎玄関入り口に設置している。過去5年間の投函数は、平成30年度12件、29年度14件、28年度6件、27年度19件、26年度11件の状況である。市民のお褒めのカードが増えるように職員の接遇向上をはかって行きたい。

次世代の人材育成について

山﨑一郎議員

問 旧城南中学校の校舎を利用し、国際的な人材育成スクールを誘致したいとの構想の実現を期待するがどんな現状なのか。

答 まだ、具体的な状況に至っていない。引き続き有効活用を含め検討していく。

問 グローバル化時代には毎年戸狩と斑尾で開催されている、多言語で触れ合うヒッポファミリーの体験が、次世代育成に重要に思う。地域の子どもの参加について、支援すべきと思うがどうか。

答 地域の子どもたちの将来にとって、大変大事な事と考えている。子ども未来基金を活用して支援を検討したい。

問 飯山には次世代育成の良い環境があるとの指摘があるので、地域を様々体験出来るように、古民家等を利用した「お試しハウス」的な施設を検討すべきと思うがどうか。

答 様々な育成団体の皆さんに、地域をお試し体験して貰う必要性を感じているので、進めたいと考えている。

住みやすい地域づくりを

佐藤正夫議員

問 人口減少しても地域の皆さんが、ここが一番住みやすいと感じる施策をするのが行政だと思うが。

答 いかに住みやすくするかということが本来の観点であり、しっかり取り組む。

問 戸数が減っても元気な集落は限界集落では無いが若者に負担がかかる。集落を長く維持できるよう様々な支援を。

答 課題は集落により異なり一括解決は難しいが状況は把握しているので、出来ることから対応策を考えて行きたい。

問 地域の課題に取り組み相談に乗る集落支援員制度を創り、活性化センター所長に一翼を担ってもらったらどうか。

答 地区の団体事務等を軽減させてもらい、相談、支援に当たる体制を進めていきたい。

問 高齢者の車事故が多発しても、この地域では車無しでは立ち行かない。先進安全自動車への買い替えやアクセルとブレーキの踏み間違い防止装置等への補助を検討すべきだ。

答 高齢者が長く運転できる支援策や免許証返納後の支援も合わせて検討の必要がある。

議会活性化特別委員会　議会のあり方分科会を開催

7月24日、第2回目の分科会を開催しました。事前に各委員から課題と思われる事柄を出してもらい、出された意見について議論をしました。

①本会議のあり方
- 上程された議案について質疑なしの慣例を見直す必要性
- 一般質問について、議論を深めるための方策
- 市長他の反問権の範囲
- 説明ボードの使用
- 休日、夜間議会の開催

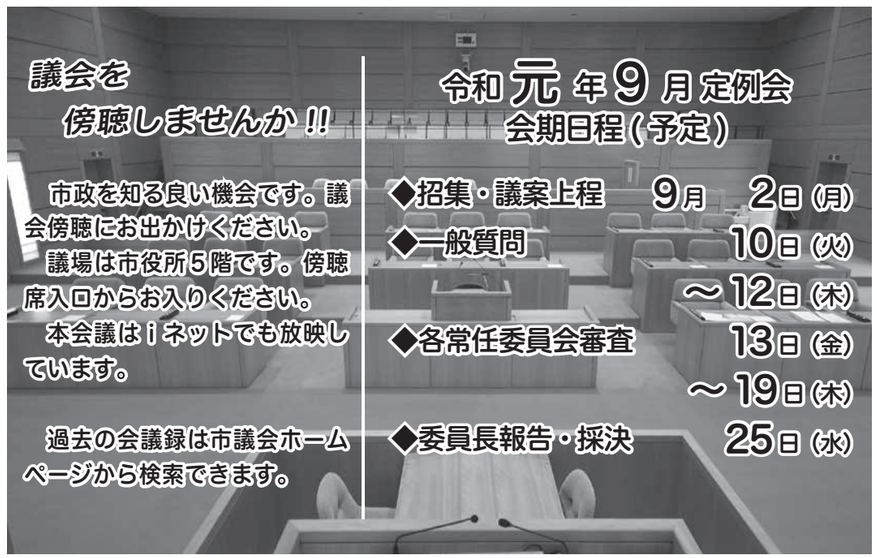
②議員全員協議会のあり方
- 市長部局からの報告事項以外の協議
- テーマを決めて議論する方向について検討

③常任委員会の見直し
- 予算、決算委員会と常任委員会の兼ね合いと審議方法（審議時間、事前調査等）

④その他
- 多くの人に議員を目指してもらうための取り組み
- 昨今のICT化に対応するためのタブレット端末等の活用策
- 請願紹介議員の説明を求める必要性
- 議員間討議
- 議員および必要に応じて理事者、職員を含めた研修のあり方

以上の項目の他、広報公聴分科会と連携して市民の意見を聞きながら、優先順位を決めて検討していくことになりました。

議会運営委員会行政視察
8月6日（火）福井県越前市議会
8月7日（水）石川県かほく市議会
・議会基本条例の制定、議会活性化の取り組み



行政視察受入

◎7月26日徳島県三好市議会の会派三好楓会様が「市民協働の取り組みについて」視察に来飯されました。

「協働のもりづくり、むらづくり、みちづくり事業について」農林課、道路河川課より説明をしました

◎7月31日大分県日田市議会の産業建設常任委員会の皆様が「林福連携事業について」視察に来飯されました。

「林福連携事業（農福を含む）の取り組みについて」農林課、保健福祉課より説明をしました